

最新医療経営

PHASE3
フェイズ・スリー
October 2023 vol.470 **10**

病院
伸化論

社会医療法人厚生会
**中部国際医療
センター**
(岐阜県美濃加茂市)



巻頭特集

まちの患者は誰が診る？

外来機能の 分化と連携



病院トップの経営者魂
梶原崇弘
医療法人弘仁会
板倉病院
理事長・院長
「おらが町の病院」として
さらなる進化をめざす

第22回
「大阪病院学会」

記念特別座談会
**超高齢社会の医療モデルを
大阪から発信する！**



特別インタビュー
東京都病院協会
「医療」「生活支援」を焦点に
病院の体制づくりと評価

病院トツプの
Cool Head, but Warm Heart
経営者魂
Vol. 71

梶原崇弘

医療法人弘仁会
板倉病院理事長・院長

1940年の開院以来、80年以上にわたって地域住民に親しまれている千葉県船橋市の板倉病院。2012年、祖父の代から続く同院を引き継いだ梶原崇弘理事長・院長は地域共生社会の実現に向け、地域と一体となった病院づくりを進んでいる。これからも地域をデザインし、地域住民から「おらが町の病院」と呼ばれるようになるため、歩みを進める。



Takahiro Kajiwara

地域をデザインする 「おらが町の病院」として さらなる進化をめざす

撮影=関口宏紀

Q&A 10問10答

- Q1** 自分の性格をひとりで言い表すと？
まじめで慎重な一方、挑戦することも大好き。常に新しいことをやっていたいタイプです。
- Q2** 弱点を1つ教えてください。
せっかちなところ。
- Q3** 最近うれしかったことは？
誕生日のサプライズプレゼントとして、職員からカップ麺と内服液型の胃腸薬をもらったこと。紙袋を開けたら大量に入っていました。飲み会が多いのを氣遣ってくれ「よく見ているな」とうれしかったです。
- Q4** 今はまっているものはありますか？
いろいろな人と出会って、人と人をつなぐ地域デザイン
- Q5** タイムマシンがあったら行きたいのは過去？未来？
過去。自由な校風の中学・高校で遊びほうけてしまったため、もっと勉強しておけばよかったと後悔しています。
- Q6** 人生で最も影響を受けた人は？
大学時代の恩師の高山忠利先生です。
- Q7** 日課はありますか？
救急搬送件数や病床入院数を毎朝確認しています。カルテにも目を通し、トラブルの芽がないか、チェックすることで安心して一日が始まります。
- Q8** 人生最後に食べたいものは？
お寿司
- Q9** 今一番会いたい人は誰ですか？
大谷翔平選手。人がやらないことにトライし、誰も見たことがない景色を実際につくりだしているところがすごいと思います。村木風海さん(地球温暖化防止策などを研究している発明家)、故人ですが、手塚治虫さんにも会いたいです。
- Q10** 病院トップとしてふさわしい素養は？
決断力、職員およびその家族を抱きしめる包容力、最後は自分が責任を取る覚悟。

●医療法人弘仁会 板倉病院

「救急」「地域医療」「予防」が柱
船橋市南部地域の唯一の病院



1940年、船橋外科病院として開設され53年、医療法人への変更に伴い現名称となった。「救急」「地域医療」「予防」を3本柱に、介護・福祉・保育など幅広く展開。法人が運営する介護老人保健施設は間もなく新築工事に入り、来年10月に竣工予定。

” 市民の健康を支え、職員とその家族を幸せにする “



PROFILE

かじわら・たかひろ ● 2000年、日本大学医学部医学科卒業。同年、同大学医学部消化器外科入局。国立がん研究センター中央病院肝胆膵外科、日本大学医学部消化器外科などを経て12年、医療法人弘仁会板倉病院院長。19年から同法人理事長を兼任。日本大学医学部消化器外科臨床准教授、日本在宅療養支援病院連絡協議会理事、日本外科学会外科専門医、日本病院会病院経営管理士、医学博士

「子ども病院体験」「お酒の教室」「ラテアート講座」など、病院の枠にとらわれないユニークなイベントを数多く仕掛けています。

梶原 当院は船橋市で最も歴史のある病院ですが、医療や病院は時代の要請によって常に変わっていかなくてはなりません。子どもの頃から育ったこの地域をさらに活性化していくことを使命と考え、医療領域にかかわらず、注力しています。

地域包括ケアシステムは地域共生社会の実現に不可欠で、当院のような地域密着型中小病院が中心

的役割を担わなければなりません。ただ、船橋市のような都市部においては地域とのコミュニケーションが希薄になりがちで、隣の住人をよく知らないケースすら珍しくありません。高齢者を支える地域コミュニティが生まれにくいのです。だからこそ、われわれの側から地域に出ていき、医療を人と人をつなぐマグネットとして、横のつながりを広げていくことで、病院発のコミュニティを形成しようと考えました。

もちろん、コミュニティをつくるのは簡単ではありませんが、市

民対象のイベントは万人から好かれる内容である必要はありません。全員から支持されようとすると、かえって個性のない中身が薄い取り組みになってしまいます。10人のうち3人ぐらいから「いいな」「面白いな」と思っていたら十分だと思えます。そして次の段階では、その3人がキーマンとなってコミュニティを水平展開でつづけていただくような形をめざしています。

何よりうれしいのは、職員が「病院が地域をつくり、地域が病院をつくる」というビジョンに共感し、

積極的に動いてくれていることです。彼らにとっては、文化祭を企画し一緒に盛り上げていくような気持ちなのでしょう。ときにはうまくいかないこともありますが、試行錯誤を繰り返して、次に活かす改善点を見つけ、失敗を恐れず挑戦する姿に成長を実感しています。今春、院内で開催した「絵本づくり教室」は職員の一人が休日に参加した催しで講師の先生と知り合いになり、当院主催のイベントとして実現しました。お子さんからお年寄りまで参加し、表紙もある本格的な絵本づくりに取り組みま

——これから病院がめざす方向性について教えてください。

梶原 私が院長に就任してしばらくは経営状況が大変な時期もありましたが、現在は立て直し、外来患者数や健診受診者も着実に増えています。「板倉があつてよかった」という声をよく耳にしますし、応援していただけるファンは増えていくと、手応えを感じています。

す。自分自身の機嫌が悪いときに人に優しくすることはなかなかできません。少なくとも、この職場で働いていて「いいな」と思っている点にありませう。

高次医療機関への転送OKなど、やること」と「やらないこと」の業務や役割の線引きを明確にして

訪問看護ステーションについても、安心・安全に長く働き続けられる環境をめざしています。柔軟な働き方に対応できるよう、夜間緊急出動を強制していません。その代わり、救急車を手配し、必ず当院で対応するようにすれば病院のリソースを最大限に活かすことができます。

定する病院経営管理士のほか、認定看護師、介護福祉士などの資格取得にも学費を支給しています。さまざまなプレイヤーがつながり、それぞれが助け合う姿が真の地域医療であり、地域全体をハッピーにすることが究極の地域密着型病院のあり方だと思います。それを支えるため、働く側が犠牲になるのは正しいとは言えません。

今後は、まず「市民の健康を支えるために存在する」、次に「職員とその家族を幸せにする」、最後に「法人が存続するための利益を上げる」という理念のもと、ビジョナリーカンパニーをめざします。

地域に根差した高品質な医療を継続するためには、職員が安心して働ける環境が重要で、私は職員を「人財」と考え、その家族まで守ることを大切にしています。そのため、ワークライフバランスをはっきりさせ、大半の医師が午後5時の定時どおりに業務を終了できています。このような働き方ができている理由は、▽夜間緊急手術なし、▽オンコール呼び出しなし、▽救急搬送は断らないが、

また、日本では海外に比べ、医療に限らず、人材投資が非常に少ない気がします。やはり、もっと人にお金をかけるべきで、当院では希望者に対し、日本病院会が認

「わくわく、活き活き」と快適に働ける職場をつくっていきます。